

練習問題 一

字

借屋郎

庄

寅三十式才

一 丈高くやせ方

一 眉毛ふとくほほこけ

一 眼大きく

一 鼻筋通り

一 耳口常躰

一 色浅黒く

一 ひたひ二筋違ひ二三寸ほと

一 疵有之

一 齒ならび能(よく)

一 髪毛薄く、月代濃

一 背中ニ菊慈童の

一 ほりもの後ニ阿南のほりもの

一 言舌穩ニて急候節者どもり \*者||は

一 其節の衣類

一 みそこしごばんじま

一 単もの

はか事 さた

寅三十才

練習問題 1-3

- 一 丈並ヨリ少々大きく太り
  - 一 鼻筋丸く
  - 一 平顔ニ而薄しわあり
  - 一 (いろしろくしミアリ) \*9字
  - 一 眼細く
  - 一 耳口常躰
  - 一 髪毛短くはいぎはこく
  - 一 角ひたひ眉毛太く
  - 一 足外ニかり
  - 一 (左リ薬指ニ銀指者め) \*9字
  - 一 (但し御輪菊彫もの事) \*9字
- 其節衣類
- 一 木綿紺地白こはんしま
  - 一 単もの浅黄鹿之子
  - 一 締めり単もの所持いたし

八月五日 渡辺園十郎

練習問題

大沼田新田吉五郎

〃 小政

尾州清五郎

甲州無宿 市五郎

外壺人

小川村孫次郎

同村ニ而質屋参り候処ヲ

品物衣類共（はぎ取）＊3字

（田無村磯五郎）与申者ヲ

恋ケ久保ニ而同断（はぎ取）＊3字

当十七日夜（前沢村）ニ而

安松村無宿千松与申者ヲ

首の代りニ髪ヲ切取

房主ニ致申候

小金井村小次郎ヲも

首ヲ取候由申歩行、今ばん

ニも同人方江押込候様子ニ

御座候、同人儀者倅の ＊者〓は

名前ニ而府中宿之

茶屋渡世罷在之、三ヶ年

前四五人子分在之候処

名主相断候処、今以

同人元子分ニ相成候与而も ＊とても

首ヲ取可申由ニ（而、度々）

（ 巷ヶ年ニ 両三度宛も ）

駿州筋ヨリ前書名前

の者申合罷越、（是迄而）

（ らんぼふ致候儀 ニ御座候 ）

テキスト1

十月九日

千客萬来

目出度 大々叶

ニナナナ

●●○○津屋(つや)

ナナナナナ

●●●●○○多以(たい)

ナナアナ

●●○○○(登とき)

アうア

●●○○奈を(なを)

ニ

●●むら

屋以(やい)

ニアア

●●○○喜ん(きん)

ナう

●●(飛ひで)

ナナ

●●○○古う(こう)

アナナ

●●○○よし

上ナ

●●○○志ん(しん)

メ三十人

道共七斤

テキスト2

正月八日

千客萬来

目出度 大々入家納

ナシナ

●●○津屋(つや)

シナナ

○●○多賀(たか)

ナナナシ

●●○多ゑ(たえ)

ナナシ

●●○登き(とき)

ナナシ

●●○きん

ナナシ

●●○ひで

ナナシ

●●○(百)

ナシ

●●○奈尾(なお)

ナシ

●●○(哥(歌))

ナ

●○幸(こう)

三拾五人

テキスト 3-1

(玉吉の手紙)

御ま衛様 ( わたしお ) ふびんニ

( おほしめして ) せひょ

この者へ御よこし被下候くだりたれせうろう

猶又 ( わたしも ) とふ

きやくしんもなし へやでも

過してわ 御ま衛様ニ すますなど(い)

やうて かさつ ( わたしも )

とふこまり 候へば

金壹両でも金貳分でも

すはやく 御よこし被下候

猶々かみがたヨリきやく

しんで いのがあります

まで それもこし それがくれ  
ば じすけさんがいくつも

くはおり候へば 御ま衛様

たすけ而と( おほしめして )

しきやくお、わさゝゝあけ

ますから すはやくおよこし

被下、ひとへにゝゝ御ねかひ もふし

あけ候、さう様可被下候

御ま衛様 金壹両でも金貳分でも

せひゝゝ御よこし被下 御たのみ

もふしあけ候 何事も

このだんひとへにゝゝ、御ねかひ

もふしあけ候

まっわ

( あらあら )

( めで度 )

( かしく )

内 旦那様 玉吉ヨリ

かへすゝもせひゝゝ御よこし

可被下候 猶ゝきやくしんも

なく候へばすはやく

御よこし被下御たのみ

もふしあけ候

( かしく )

たよりに申し候 あつさ  
つよく候へどもかハリのふ  
御くらしなされ候や かげ  
ながらうれしくぞんじ候  
わが身事もかハリ  
のふぶじにくらし  
おり候ま々御あんじ  
なされ間じく候 せん日  
者いろ々々御こ々ろづかい  
下されおさのどのヨリ  
うけとり申し そのせつ  
おんめにかたり申度

候得どもじゆう二ならぬ

みニ相成おもいながら

( めもじ ) ( いたし申さぶ )

ざんねんニぞんじ候また

そもじのふみニ、( わが )

( 身の事ニつき 大はら )

( のいなりさまへ がんかけ )

( かみのけまでつめ かつへ )

( あさくさかんおんさまへ )

( わが身ニまいり候よふ )

( くわしく申しこし ) ( よふ々々 )

廿八日ニ御礼まいりニ

まいり候ま々あんど給り

申まじく候 おむめどのへ

たのみ申つかわしおき

候とおり わが身のしん  
ぼういたし そのちい  
かいら候までかならず  
まちおり申べく候 万事二  
しんぢくもとんいも  
御ざなくあんかんと月  
日をおくり候ま々 朝夕  
そもじの事のみおもい  
くらし、じつにかたとき  
わすれがたし かならず  
ふじつのこ々ろなざづに  
まちおり候よふ そのうち  
たよりに申こし候くわしく  
へんじニしたためつかわし

申べく候うハがきの名ハ

勘五郎さまなにて

おくり申へく候いろ々々

申つかわしたき事

山ほど御さ候へどもいろ々々

とりこみゆへたよりのみ

申し候何分々々めで度

かしく

六月一日

幸助

さくどの

テキスト 4-5

おいがきニ申し候きつと

しんぼういたし かたき

そのちいたちかいり申度

候ま々そもじ事もちからを

そへまちおり申へくよふ

くれ々々もたのみ かしく

「テキスト5-1」(下拙から万五郎への依頼)

(一筆令啓上候)、先以

其御地皆々様、益御機嫌能

珍重之御儀ニ奉存候、然者

此度、八王子宿治郎吉殿ヨリ

書面参り拝見致し候所、娘

志のぎ親元ヨリ横手村 \*横手村(埼玉県日高市)

七五郎殿ヲ以、御返シ呉候様ニ

掛合ニ被及候趣之書面

参りた賀江、右之義申聞

候所、(是非志のぎ者返シ)

(不申様ニ御掛合之義ヲ)

(田中屋様江御頼呉と)被申

可相成者返し不申様ニ相頼

下拙義江、其地迄参りて

可相願所、御存知如参り

兼何分宜敷様ニ御取斗

被下、先者用事斗申

早々以上

二啓申参、御家内様江も

宜敷御伝言之程、よろしく偏ひとへに

相願申候

く<sub>こ</sub>に<sub>こ</sub>たち<sub>ち</sub>郷<sub>ごう</sub>土<sub>ど</sub>文化<sub>ぶんか</sub>館<sub>かん</sub> 二〇二〇・一〇・一〇

歴史講座「襖の下張り文書から―府中宿の田中屋と遊女―」

講師…原 祥